

1 . サンフロンティアの経営（核心編）

1) 利他

< H.14.10.28 >

サンフロの社是は「利他」です。

仲間のために働く、まずはこれです。その上で、仲間の幸福のために、お客様にはその10倍を利他の心で役立たせていただく。そして、お客様に役立たせていただくためには、更に大きな愛で社会性にあった仕事をしなければなりません。社会性とは、地球や共存する動植物に対して、思いやりで満ちた心で仕事を通じた生き方を考えることです。

社会に貢献するために、思いやりの心で人の幸せに向かって創意工夫・改良改善する努力を全員が行なえる生き方。その第一歩は、周囲の人にどれだけ貢献することができるか。それこそ私達が追い求める価値なのです。

心の純粹さこそが偉大なことを成し遂げます。会社に対する誇り、愛情、親近感、そして大きな夢を抱き、感謝の心をもってお客様や仲間のために全力を注ぐ。「利他」の心をもって誇りある企業に、一人一人の力で育てていこうではありませんか。

1 . サンフロンティアの経営（核心編）

2) 誰にも負けない努力

< H.11.9.20、 H.17.8.1 >

一回限りの人生を実り多きものにしたいものです。ビジネスマンが一生において、何よりも多くの時間を費やす「仕事」で自己実現を図れるようなものにしたいものです。

その始まりは、愚直なまでにクソ真面目に働く、熱意をもって仕事にあたり、誰にも負けない努力を日々重ね、最後の成功まで粘りに粘ってやり抜くことです。

「ただ一途な努力ができる能力」を身につけることが、根を地中にしっかり伸ばし、立派な根っ子づくりによって、常に可憐な花を咲かせられる全てのもとになっていきます。

仕事でどうすればよいか、今ひとつわかっていない人が多いはずですが。それは余計なことを考えているからです。余計なことをゴチャゴチャ考えずに、今与えられた仕事を必死で頑張り、働いて結果を出すんだ、今このときの仕事を力の限りを振り絞って、全力で成就させること。それが仕事に立ち向かう人間の第一ステップです。

1 . サンフロンティアの経営（核心編）

3) 絶対的積極

< H.13.1.29 >

いつどんなときであろうとも、絶対に失ってはならない態度、それが「絶対的積極」です。人生全ての出来事を取り仕切るのが「心」であり、その原動力、エンジンとなるのが、「いつも積極、常に積極」という力強い心の態度なのです。

「心」は人生を活きたものにする生命用具ですから、くれぐれもマイナスの意思に心が支配されてはなりません。仕事がうまくいかないのは、自分の「心」に積極一本になり得ていないところがあるからです。

決して否定語は使わない。危機意識はもつが悲観的発想ではなく可能性追求型でチャレンジ欲旺盛。悩んでいる時間があるなら即断即行する。心が高まり、調和を生み出し、仕事を成功へと導く人の共通項こそ「絶対的積極」という強い心の姿、行動の姿なのです。

どんなときでも明るく朗らかに絶対的積極な態度こそ、仕事や人生を好転させてくれます。成功とは、絶対的積極心の産物なのです。

1 . サンフロンティアの経営（核心編）

4) 「三大方針」を実践して ベクトルを揃える

< H.15.7.14 >

サンフロでは、全従業員がめざす方向性を定めています。それが「三大方針」です。それは、まるで大海に漕ぎ出す小舟の集団が、「どの港をめざすか」ということを共有するのと同様です。

- 1 . 利己主義よりも利他主義
- 2 . 誰にも負けない努力
- 3 . 絶対的積極

この進むべき方向に考え方のベクトルを合わせ考動する。左右に30度ずつのぶれは一切気にせず、三大方針に沿った考え方で前へ前へと突き進んでいくのです。人生の成功は、正しい考えで正しい努力をすることからです。それは、凡人の私達一人一人の能力など大したことはありませんが、同じ方向に突き進む100人の集団となったときのエネルギーたるや、物凄いものになっていくからです。

私達は、三大方針を実践して全従業員のベクトルを揃え、今後迎える多くの仲間と共に、より一層人類・社会の役に立っていくのです。

1 . サンプルンティアの経営（核心編）

5) 正しいことを貫く

< H.16.1.5, H.16.7.5 >

「人間として、正しいことを求め、正しいことを貫く」。サンプルの経営は、仕事において、また一人の人間として、毅然とした正しさが最優先の判断基準です。

「うまくやろう」は、仕事を複雑にします。難しくします。企業とは、社会の進化発展に合致した事業において、お客様のニーズをしっかりと把握し、付加価値創造によって、正々堂々と正しいことを貫く。その上で本業においてお客様にご満足と歓び、感動をご提供させていただき、お役立ち高として、公明正大に利益を頂戴する存在でなければなりません。

仕事は、筋の通った、道理に合う世間一般の道徳に反しないものでなければ、一時の成果はあろうとも、未来に向かっての繁栄はあり得ません。

正しさとは、人間としての原理原則を判断基準とする「公平・公正・正義・勇気・博愛・謙虚・誠実・透明・感謝」という心で、正しいことを正しいままに貫いていくことです。